

2025 年 8 月 13 日作成 Ver.1.0

2025 年 8 月 28 日作成 Ver.1.1

《情報公開文書》

広範な転移個数または臓器数を呈した非小細胞肺癌における薬物療法の効果に関する 後方視的検討

研究の概要

【背景】

近年、進行非小細胞肺癌において限られた転移（oligometastatic disease）に対する局所治療の有用性が報告されています。一方、より多くの転移を有する症例に対しては薬物療法が主体ですが、転移の拡がりや薬物療法の効果に与える影響については十分に明らかではありません。広範に転移した症例において、薬物療法の治療効果に影響を与える因子が何であるのか、さらにどのような薬剤がより高い効果を示しているのか、といった課題については十分な検討がなされておらず、その理解は重要な意義があります。

【目的】

広範な転移を有する症例において、どのような薬物療法が高い治療効果を導くのか、もしくは逆に抵抗性を持っているのか、さらには何が治療効果に影響を及ぼす因子であるのか、を明らかにします。さらに、同一薬物療法であっても転移の拡がりに応じて治療効果に変化を生じるのか、についても検討します。

【意義】

薬物療法の効果に影響する因子を明らかにすることで、進行再発非小細胞肺癌患者のより適切な治療方針の選択に貢献する可能性があります。

【方法】

長崎大学病院で薬物療法を受けたⅣ期および進行再発非小細胞肺癌患者さんの診療録を参照し、診療情報は収集・匿名化して薬物療法を施行した患者の患者背景、治療内容、治療効果などをもとに、局所療法不能な転移を有する症例においてどのような治療薬剤が高い有効性を示していたか、またそれらの中で転移の拡がりの程度に応じて治療効果に違いが生じたのか、について統計学的に解析します。

対象となる患者さん

2015 年 1 月 1 日～2025 年 5 月 31 日の間に、長崎大学病院で薬物療法を受けたⅣ期および進行再発非小細胞肺癌の患者さんが対象です。

研究に用いる情報

●研究に用いる情報

下記の情報を診療録より収集します。

- ・性別、年齢、診断名、喫煙歴、組織型、パフォーマンスステータス、遺伝子変異、PD-L1（免疫治療の効果予測）発現率、転移個数、転移臓器数、治療前合併症
- ・血液検査・生化学検査（白血球数、赤血球数、ヘモグロビン、血小板数など）
- ・画像検査（単純写真、CT、MRI、PET-CT）
- ・薬物治療の内容、治療効果、有害事象の有無
- ・治療終了後の経過

情報の利用開始予定日

本研究は 2025 年 9 月 4 日より 2026 年 3 月 31 日まで「研究に用いる情報」を利用する予定です。

なお、あなたの情報をこの研究に使われたくない方は下記の「問い合わせ先」までご連絡頂ければ対象者から外します。その場合もあなたの治療等に不利益になることはありません。

ご連絡のタイミングによっては対象者から外せない場合もあります。

あらかじめご了承ください。

研究実施期間

研究機関長の許可日～2026 年 3 月 31 日

研究実施体制

研究責任者	所属：長崎大学病院 呼吸器内科 氏名：道津 洋介 住所：長崎県 長崎市 坂本 1-7-1 電話：095（819）7273
情報の管理責任者	長崎大学病院 病院長

問い合わせ先

【研究の内容、情報等の利用停止の申し出について】

長崎大学病院 呼吸器内科 担当者 道津 洋介

〒852-8501 長崎市坂本 1 丁目 7 番 1 号

電話：095（819）7273 FAX 095（849）7285

【ご意見、苦情に関する相談窓口】（臨床研究・診療内容に関するものは除く）

苦情相談窓口：医療相談室 095（819）7616

受付時間：月～金 8：30～17：00（祝・祭日を除く）